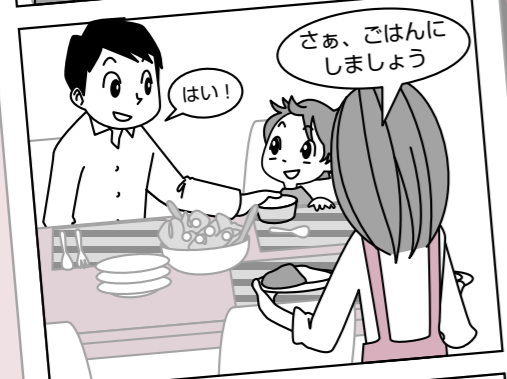
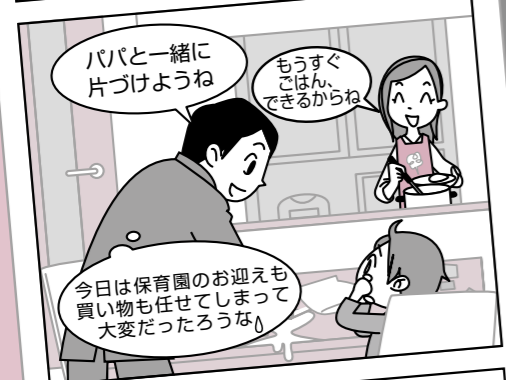


HOW

HOWとはHigashi Osaka Womenの頭文字で、「お元気ですか?」「どのように生きていきたいですか?」というHOWの意味も込められています。

君も 疲れているんだよね



意識の変化とともに、 制度や仕組みの変革を

最近、若い男性がごく自然にベビーカーを押したり、スーパーで買い物をしたりする姿をよく見かけます。「自分も家事や育児に関わりたい」という気持ちが伝わってきます。

意識の変化はデータにも表れています。「男は仕事、女は家事・育児」という考えに「賛成」と答えた人が、1979年は男女合わせて72%もいました。けれど今年(2007年・内閣府)の調査では「賛成」と答えた人が44%、「反対」と答えた人が52%と、「反対」が上回りました。「意識は変わるのに30年かかる」と言われています。今後もこの意識の変化は進んでいくでしょう。

男性が家事や育児、地域活動に参加するには、社会制度や仕組みの改革も不可欠です。男性の長時間労働や男女の賃金格差が解消されなければ、現実問題として女性が担うことになってしまいます。ノルウェーでは「パパ月」と呼ばれる制度があります。子どもが生まれたら、父親も最低1ヶ月半は育児休暇を取らなければ「マイナス査定」になるという、法律に基づいた制度です。「父親も育児休暇が取れます」ではなく、「取らないと損をする」という仕組みに変える。こうした発想の転換が求められます。

東大阪市立男女共同参画センター
イコラム ディレクター
筒井 清子

家族のために
がんばっているのに

男性の家事・育児への参加を支援する事業を 紹介します。

パパもホッと広場 鴻池子育て支援センター



毎週火、木曜日(9:30~16:00)、毎週土曜日(9:30~11:30)の「ホッと広場」、第3土曜日は「パパもホッと広場」をやっていますが、それ以外の日もパパの参加、大歓迎です。自由に遊ぶおもちゃや大型遊具があります。気軽に遊びに来てください。

東大阪市鴻池町4-5-8
TEL 06-6748-8252

プレママ・プレパパ講座 各保健センター

もうすぐ赤ちゃんを迎えるママ、パパのための講座です。赤ちゃんの沐浴の練習、パパとママの交流会など楽しく役に立つ内容です。保健師のアドバイスも聞けます。日程などはお問合せください。

東保健センター
TEL 072-982-2603
中保健センター
TEL 072-965-6411
西保健センター
TEL 06-6788-0085



「家族のためにがんばっているのに…」

～徹さんのつぶやき

徹さん(32歳)は、毎日忙しく働いています。やりがいのある仕事ですが、何より家族のためにがんばっていると自負しています。そんな徹さんがちょっと不満なのは、共働きの妻・美幸さん(30歳)とのやりとりです。2歳の息子、拓也くんの保育園の世話や家事のあれこれを当然のように「やってちょうだいね」と言ってくるのです。「彼女も働いているけど、ぼくのほうが長時間働いているのに…」と内心思いながら、しぶしぶ手伝っていました。

そんなある日。とうとう徹さんの不満が爆発します。一方の美幸さんだて黙っていられません。二人の言い分はすれ違えばかりです。

どうすれば相手の気持ちを受け止め、冷静に話し合えるのでしょうか…。

主 達人 山田亮さんに聞いてみよう

家族のためにがんばって働いているのに、妻とはつい口げんかになってしまう。子どもとどう接すればいいかわからない。家族は自分のことをどう思っているんだろう。そんな気持ちになったことはありませんか? 多忙な妻に代わって家事・育児を一手に引き受けてきた「達人主夫」山田亮さんと一緒に、家族と楽しく気持ちよく過ごすためのコツとコミュニケーションを考えてみましょう。



山田 亮 (やまだりょう)
主夫として家事・育児をこなすかわら、執筆活動や講演、大学や専門学校の非常勤講師など積極的に活動している。専門は家族社会学、社会福祉。